

## 特別観望会「カレンダーの星を全部見よう」の企画 ～公開天文台とソムリエの連携～

加古川市立少年自然の家 天体担当

福澄 孝博

本年の火星小接近にあわせ、3月3日に日月火水木金土を全て見る観望会を企画した。しかし、土星だけは当所の開館時間中には昇ってこない。そこで、星のソムリエの方に協力いただき、施設近辺で土星観望会を開いていただくこととした。アマチュアとプロの連携で実現する観望会につき紹介したい。

ご存知の通り、火星は2年2ヶ月ごとに地球に接近します。そして、今年の3月6日とその接近の日となります。今回の接近は小接近である為、火星の見掛けの大きさは決して大きくは、ありません。(大接近の際の面積の6割強)。火星の北半球が良く見えるチャンスなので観測的意義は大きいのですが、一般の方にとっては、2003年の「クロマニヨン人以来の”超”大接近”のように衝撃度が大きくないのは否めないでしょう(集客効果も望めない:2003年は近年ずば抜けて、年間利用者が多い)。

ふと思ひ至り、暦を確認してみると丁度3月5日が水星の東方最大離角であり、観望の絶好機となっています。金星も太陽の東側です。さらに月齢は10.2。そこで、火星だけではなく、太陽やこれらの星などを合わせて、曜日になった星を全て見る観望会にすることを思いつきました。これから所内の検討も経なければならぬ部分もあり、詳細は確定できない段階ですが、スタンプラリーのようなゲーム性も持たせて、魅力ある観望会としたいと考えています。

ところが、1つだけ問題があります。当日、土星は地平線ベースで21:26にしか出ず、しかも当所の東には山があるので観望しやすくなるのは22時前になってしまいます。しかし、自然の家の開館時刻は21時までなのです。そこで、星のソムリエ集団”Sauce on Star”さんに協力を依頼しました。自然の家の近隣(具体的には道路を挟んで向いの、湖畔広場を使用することに)で土星観望会を開いていただき、2つあわせると7つの星がそろふ、というわけです。勿論、(きっかけは当所からの呼びかけだったとはいえ)土星だけにしぼられず、”Sauce on Star”さんには自由に観望会を開いていただきたいと考えています。あくまで『独立した』2つの観望会が同時に行われている、というスタンスです。

これまでも、公開天文台がスタッフとしてソムリエの方の助けを借りる、ソムリエの方に天文台から器材を貸す、などの交流はなされてきています。しかし、それぞれが主である、協力し合った(補い合った)活動は少ないのではないのでしょうか(事例調査中)。今回の特別観望会の立案が、アマチュアとプロとの架け橋の、新しい形を広げることになれば、と願っています。